県内主要古墳の調査（Ⅰ）

行田市高山古墳，白山古墳
及び花園町黒田古墳群の測量調査

学芸課　小久保　徹　　杉崎茂樹
若松良一　　田中正夫

1．はじめに

昭和61年度から，当館の調査研究事業として開始した「県内主要古墳の調査」は，県下に約100基程所在する前方後円墳，前方後方墳と，その他主要な円墳や方墳について，基礎的な調査を行い，埼玉古墳群の成立及び推移を考える一助とするためのものである。

調査の内容は

(1)　測量図の不備な古墳についての測量調査（必要に応じ小規模な発掘調査を実施する。）

(2)　現況調査（現状確認，写真撮影）

(3)　微化石，鉱物分析（出土資料の科学的分析）

(4)　基礎調査カードの作成（主要古墳についての台帳の整備）

(5)　文献，地籍図等の収集

等である。

当面，四年次の計画で事業を実施中であるが，昭和61年度は，行田市真名板所在の前方後円墳，高山古墳と，同市長野所在の大形円墳，白山古墳の測量調査，昭和62年度は大里郡花園町黒田所在の前方後円墳，黒田２号墳，ほかの測量調査が主なところであった。以下，その成果を記す。

2．行田市高山古墳の測量調査

古墳の立地と調査の契機

高山古墳は行田市の東部，加須市に近い，大字真名板字堂裏1536ほか，に所在する。付近は利根川の分流の小河川が，北西から東南へと幾筋にも乱流を繰返し，自然堤防が形成されているが，高山古墳は，そうした自然堤防上に立地するものと考えられる（第１図）。なお，付近には，高山古墳以外にも多数の古墳が所在したらしいが，[1] 現存するのは本古墳のみである。

古墳は薬師堂の境内にあり，山林となっている。昭和49年３月８日付けで，埼玉県史跡に指定されているが，これまで正確な測量図がなかったため，測量調査を実施し，具体的に墳形を確認することにしたものである。

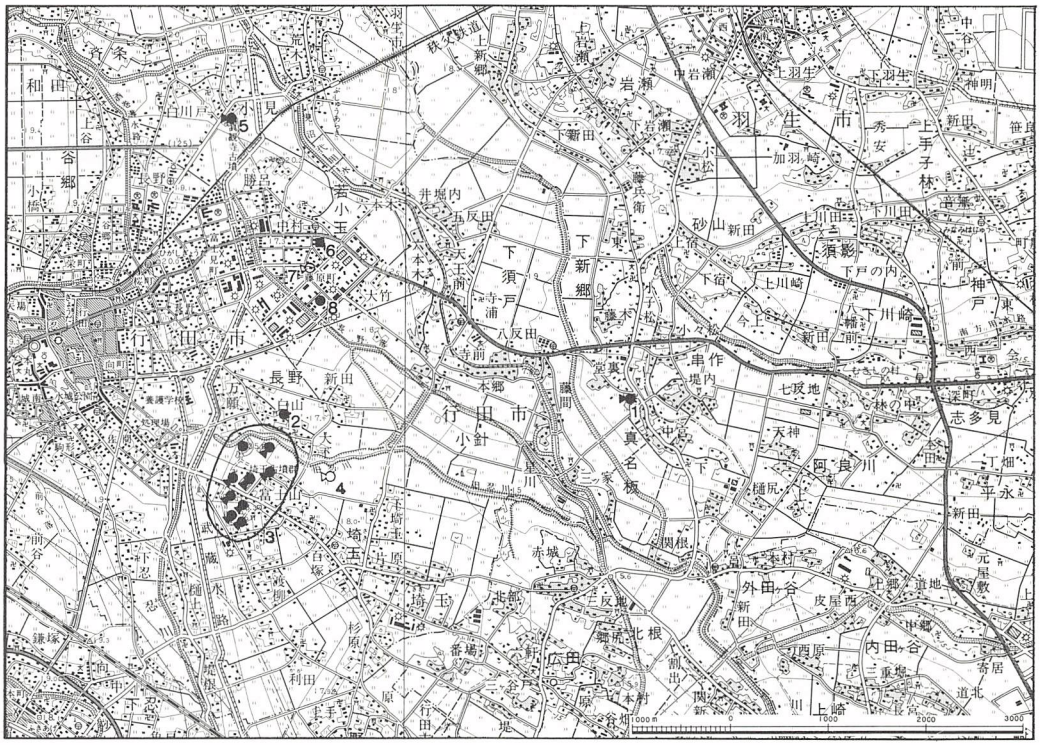
測量調査は，昭和61年４月下旬に準備にかかり，翌５月６日から14日まで実施した。原図の縮尺は１/200とし，等高線の間隔は50cmとした。

墳丘の現状と規模

墳丘は，前方部が比較的遺存が良好だが，後円部から，くびれ部は，相当悪く，平面形はあたかもマッチ棒の先端部分のような形態となっている。墳丘上からも，その著しい変形の状況が観察できる。変形の原因の一つには，くびれ部南側の民家であるが，この民家のため，あたかも古墳が折れ曲がったような格好となっている。ここにはかつて寺院が所在していたと言われ，その建設工事等でくびれ部付近が瘦尾根状に変形したものと考えられる。また，後円部も，そうした寺院の造成に関連してであろう，原形を留めているとは考え難い。そして，北側には，墳頂に至る部分まで崩壊の痕跡が残るが，これは付近の河川の護岸工事のために，墳丘の採取が行われたためといわれている。

なお，相当の変形にもかかわらず，埋葬施設は現在までのところ不明であり，遺物の出土も伝えられていない。墳丘の周辺からは，埴輪片が採取されるので，埴輪を樹立していたことは確実であるが，比較的新しい時期の所産と思える。

行田市史[(2)]によれば，「全長約90.5m，後円部の高さ7.3m，前方部の高さ5.4mを有し，後円部の頂に浅間社の石祠を祀ってある。全長の長さに比して幅員は甚だしく狭く後世多量の封土を除去したことが一見して認められる。」とあるが，墳丘が高く，浅間社の石祠があるのは，後円部ではなく，前方部であり，前方部を北西に向けた前方後円墳である。



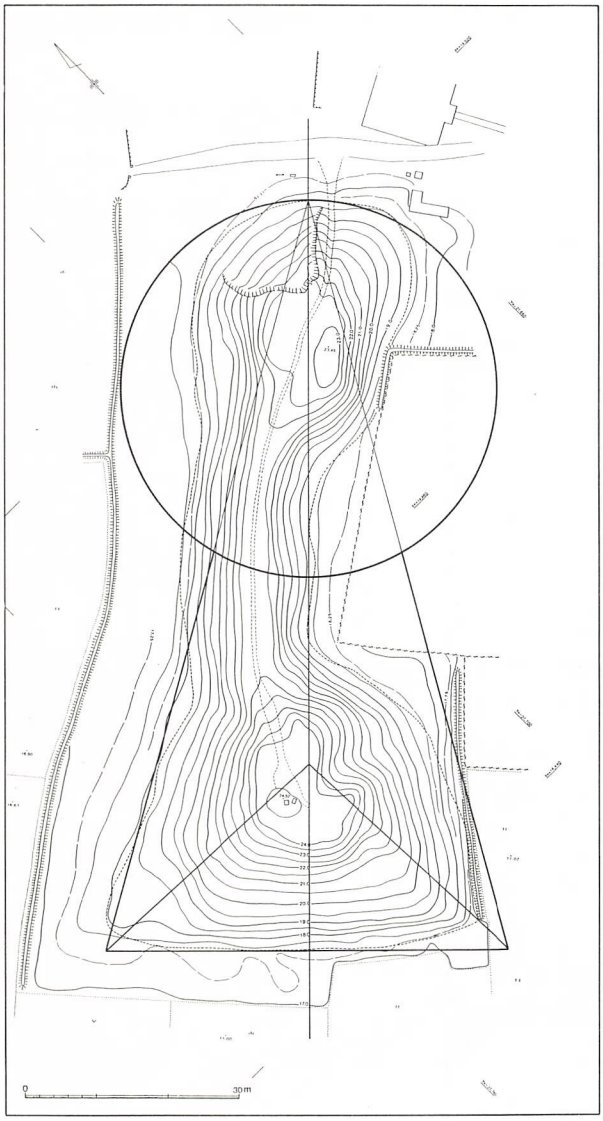
第1図　高山古墳及び白山古墳の位置

1．高山古墳　2．白山古墳　3．埼玉古墳群　4．若王子古墳　5．小見真観寺古墳
6．地蔵塚古墳　7．愛宕山塚古墳　8．八幡山古墳　白ヌキは，湮城古墳

このような状況下で，数値には，不確定要素が多く残るが，今回の調査による古墳の規模は，以下のとおりである。

まず，全長であるが，現状の傾斜変換点での測定では，104.0mである。前方部は，幅52.0m，高さは7.3mである。前面部分の，標高19.5～21.0mの部分は，等高線の間隔が，それ以外の部分に比べ，やや粗となっていてこの部分に段築が存在しており，二段築成と考えられる。前方部東側から，くびれ部にかけては，変形が著しい。

次に後円部だが，くびれ部付近から後円部の変形の著しいことは，再三述べたとおりである。後円部北側の土採取部分とその近辺の墳丘の傾斜変換線の湾曲状況を手掛りとするならば，直径を復原すると，40mは超えているものと思われる。高さについては，6.0mと，前方部より1.3mほど低い。



第2図　高山古墳墳形復原図

まとめ

高山古墳は，これまで全長90.5mの前方後円墳と考えられてきたが，今回の調査により，104.0mと一廻り大きな墳丘を有することが明らかとなった。後円部を中心に変形しているが，それを考慮に入れても，全長が100mを大きく割り込むことはないものと思われる。また，墳丘のいずれの部分が前方部か，また，後円部であるのかも，これまで明確でなかったが，前方部を北西に向けていることも明らかとなった。古墳の築造時期は六世紀代と考えられているが，同時期の埼玉古墳群の大形前方後円墳にみられる「6：3：3」型[(3)]の復原案を示しておくことにするが（第3図），正確な墳形あるいは周堀の形態等について，やはり発掘調査を待たねばならない。

註

(1) 「真名板高山古墳」『埼玉県指定文化財調査報告書第11集』埼玉県教育委員会　昭和51年3月

(2) 『行田市史上巻』行田市　昭和38年3月

(3) 上田宏範『前方後円墳』学生社　昭和44年10月

3．行田市白山古墳の測量調査

古墳の立地と調査の契機

埼玉古墳群の丸墓山古墳，稲荷山古墳の北側には，旧忍川が東流している。そして，その対岸約250ｍに，所在するのが，白山古墳である。広義の埼玉古墳群に含めて扱われる古墳であり，埼玉古墳群から連続するローム低台地の北辺部分に立地していると考えられる。付近の標高は17ｍである。

白山古墳の所在地番は，大字長野字白山で，白山社が墳丘に祀られていることからその名称がある。かつて前方後円墳とされたこともあるが，[1] 大形の円墳で昭和30年代前半に発掘調査の計画が持上がったが，火事騒ぎで取やめになった経緯がある。これまで正確な実測図がなかったため，測量調査に及んだものである。調査は昭和61年12月21日から12月23日まで実施した。

原図の縮尺は１/100とし，等高線間隔は25㎝とした。なお，図に示した北は，磁北である。

墳丘の現状と規模

墳丘の周囲は，北西及び南西が草地となっているほか，北から西が農道を隔てて水田となっている。南側は白山地区の集会場があり，東から東南側は民地で山林である。墳丘は，樹木がまばらに生える草地となっていて，白山社の社殿により，墳丘南西斜面が崩されているほか，集会場及び民地部分で大きく削られている。また，西側の農道も，墳裾部分を削っている。遺存状況は全体的には決して良いとは言えないが，墳頂部から北東の斜面は遺存状況は良好である。

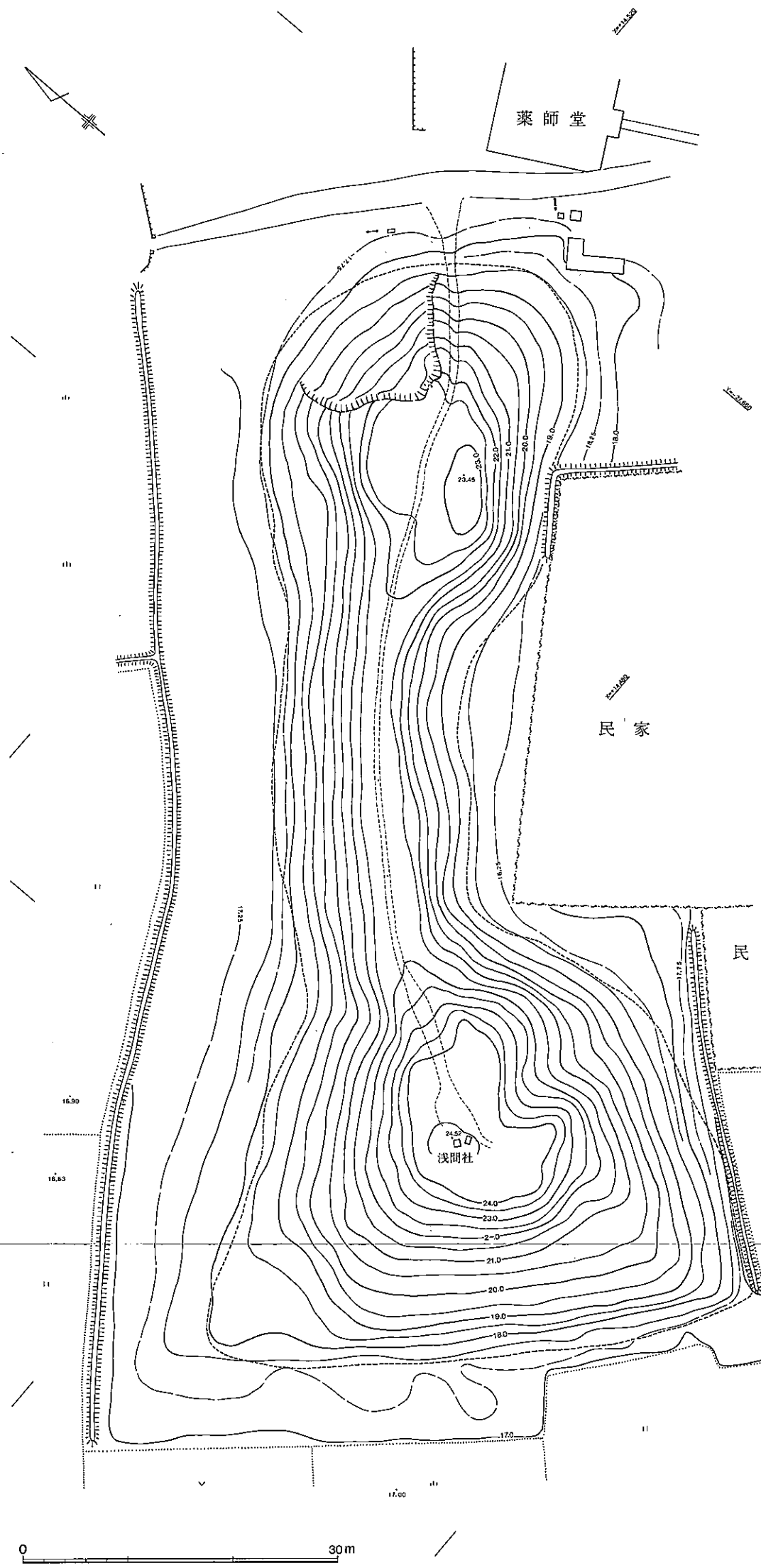
墳頂からやや南に下った部分に，緑泥片岩の石室の壁材が一部露出している（写真５，６）。地元の話によれば，かつて集会場の改築等でこの付近の土を採取したことがあり，石室の壁と床が露出したことがあった。その時の状況からすると現在露出しているのは，奥壁の上部であり，石室は横穴式石室とみて誤りなく，ほぼ南北に主軸を置くものであろう。そして床面から，この奥壁の上部までは，２ｍ以上あったらしい。また，側壁は人頭大の角閃石安山岩を積んであり，床面に近い部分が遺存していたという。現在，社殿前の石段の右手に石材の積んだ部分があるが，そのうちのいくつかは，この時に出土した壁材であると言われている（写真７，８）。

さて，墳丘の規模であるが，北東部分の墳丘の遺存の良い部分から直径は，約50ｍと判断してよいだろう。墳頂部はほぼ平担であり，最高部の標高は22.74ｍなので，墳丘の高さは5.7ｍである。白山神社殿南面の墳裾部分は等高線間隔がやや広がり，段築を形成するが，遺存の良好な北東側には明確に認められないので本来的なものでない可能性が高い。

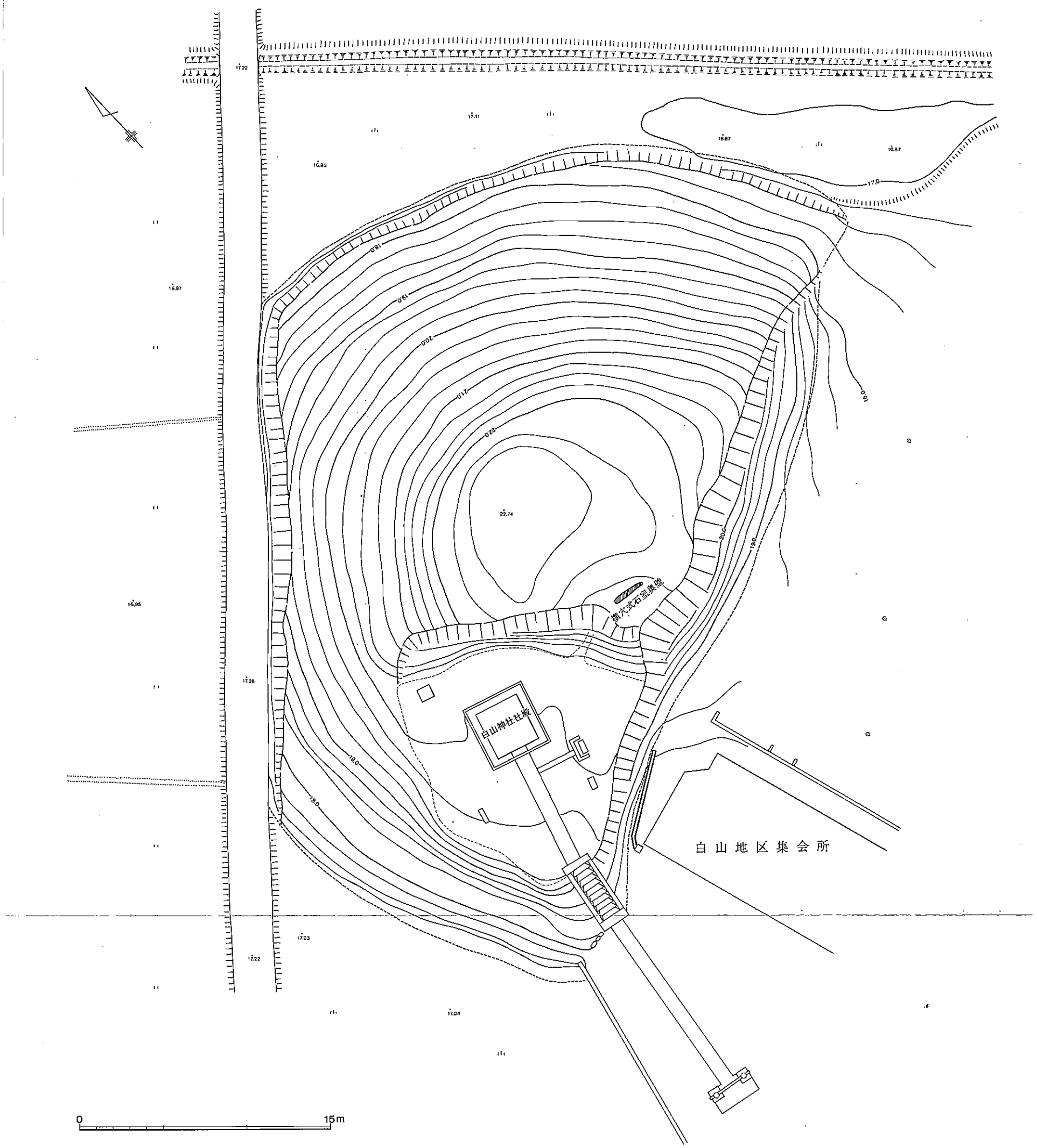
まとめ

今回の調査で，白山古墳は直径50ｍの円墳と判明した。南から東側の崩壊部分に前方部を想定し前方後円墳の可能性を考えるのは，石室の存在から無理であろう。埼玉古墳群とその周辺では，直径50mの円墳となると，丸墓山古墳(102m)八幡山古墳(74m)に次ぐ大きさである。築造時期は横穴式石室の石材に角閃石安山岩が使用されていることや埴輪が検出されないことから，ひとまず７世紀前半代を中心に考えることができようが，この時期としては，卓越した墳丘規模といえる。埼玉古墳群の最高首長墓の変遷を考えるうえでも重要な位置を占める古墳であることが判明したわけである。

(1) 『行田市史上巻』行田市，昭和38年３月


薬師堂
民家
民家
浅間社
24.0
23.0
22.0
21.0
20.0
19.0
18.0
17.0
23.45
24.52
16.90
16.63
17.02
17.00
0
30m

第3図　高山古墳測量図


17.22
17.11
16.87
16.87
16.93
17.0
16.97
16.0
19.0
20.0
21.0
22.0
18.0
22.74
20.0
19.0
横穴式石室墳
16.95
17.28
白山神社社殿
19.0
18.0
白 山 地 区 集 会 所
17.03
17.22
17.04
0
15m

第4図　白山古墳測量図

写真 1　高山古墳近景

写真 2　高山古墳近景

写真 3　白山古墳遠景

写真 4　白山古墳近景

写真 5　白山古墳
横穴式石室奥壁

写真 6　同　上

写真 7　白山古墳石室側壁材の散乱状況

写真 8　白山古墳石室側壁材

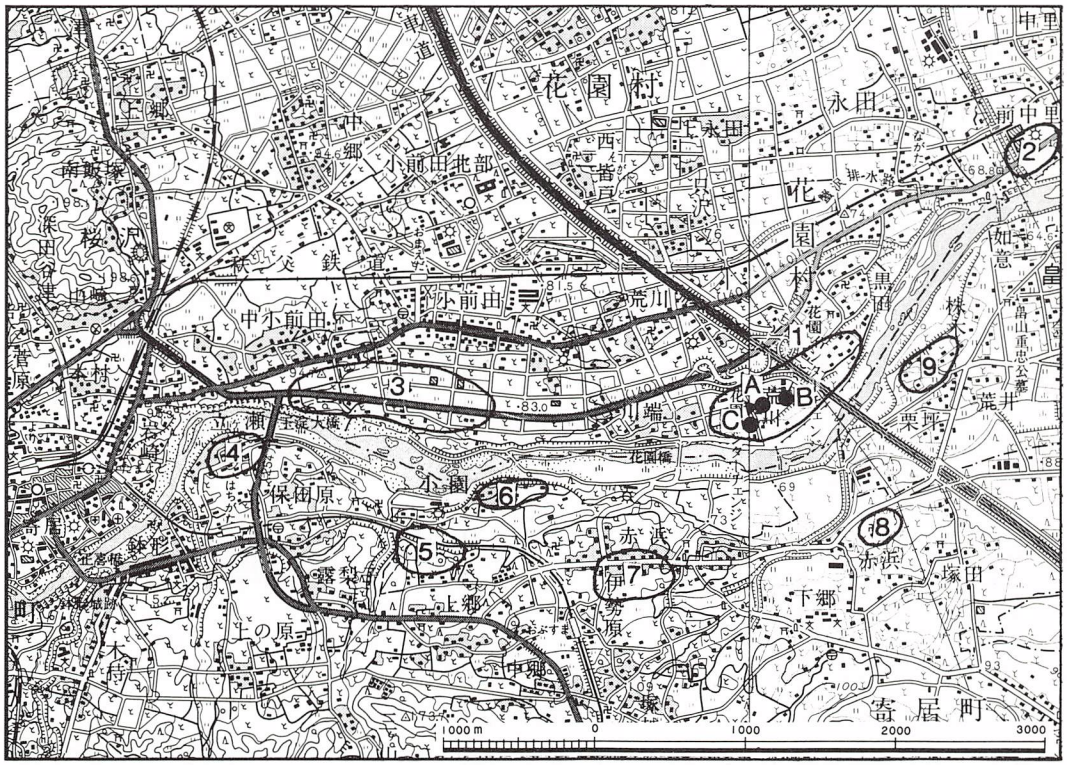
4．大里郡花園町黒田古墳群の測量調査

黒田古墳群の現状

大里郡寄居町，花園町，川本町を流れる荒川の河岸段丘上には，大小の古墳群が知られている。（第５図），寄居町から花園町にかけて所在する小前田古墳群や川本町の鹿島古墳群などは中でも規模が大きく，100基前後の円墳を主体に構成されていた古墳群であった。しかし近年の土地改良やその他の開発事業で，こうした古墳群は急速に姿を消しつつある。

花園町黒田ほか，に所在する黒田古墳群も，荒川の河岸段丘上に立地し，６世紀代を中心とする古墳群である。かっては前方後円墳２基と30基以上の円墳が所在していたらしいが，[1]開墾やほ場整備でその多くが姿を消していった。[2]幸いなことに，前方後円墳である２号墳は，現状保存されているが，測量図もなく，学術的な検討資料に乏しい。荒川の河岸段丘上の古墳群中の前方後円墳は，この黒田古墳群中の２号墳以外ほとんど知られておらず貴重といえ，墳形の具体的状況を把握するため，昭和62年５月７日から13日まで，測量調査を実施した。なお，周辺に遺存する円墳２基（第12，16号墳）も同時に測量調査した。

調査の実施にあたっては，地元花園町教育委員会及び同教委学芸員の森下昌市郎氏並びに，地元の方々には御協力，御高配を賜わった。記して謝意を表する次第である。



第５図　黒田古墳群と周辺の古墳群

１．黒田古墳群（Ａ：２号墳，Ｂ：12号墳，Ｃ：16号墳）　２．見目古墳群　３．小前田古墳群　４．立ヶ瀬古墳群
５．上郷古墳群　６．小園小墳群　７．伊勢原古墳群　８．赤浜古墳群　９．箱崎古墳群

(1) 『古墳調査報告書　第４編』（埼玉県教育委員会　昭和35年３月）の古墳分布地図による。

(2) ほ場整備関連で記録保存した古墳については下記文献に報告されている。

『黒田古墳群』同古墳群調査会　昭和50年３月

黒田２号墳（所在地：大字黒田字上川端1905）

周囲を唐黍等の畑に囲まれており，付近の標高は73.9～74.4ｍで，南方の荒川に向い，わずかに傾斜地となっている。古墳は町の所有となっており，草地となっている。

墳丘は，測量図にするまでもなく，前方部が大きく削られており，西方に突出するような形でわずかに遺存しているにすぎない。したがって，墳丘全長は33.0ｍであるが，勿論遺存墳丘長ということになる。地籍図を参考にしても前方部の原平面形を推定するのは困難である。一般的な前方後円墳なら，西方の道路が前方部の前面を画する可能性があるが，墳形の確認には，発掘調査を待つほかないであろう。

後円部は比較的遺存は良いが，北側と東側の墳裾は削られていると見てよいであろう。現に北側の斜面には崩壊が認められ，東側は石積がされている。墳頂に近い標高77ｍ付近の等高線は，ほぼ正円形となるが，これと同心円で，比較的遺存のよい南側墳裾を復原すると，後円部直径は約28ｍとなる。

また，標高76.0ｍ付近は，等高線間隔がやや広い部分が墳丘をほぼ一周しており，二段築成とみてよいであろう。後円部高は，最高点が，78.35ｍなので，4.2ｍである。

黒田２号墳の埋葬施設は不明であるが，これまで調査された古墳群中の古墳で判明しているのは全て横穴式石室なので，古墳群の中核となる本墳の場合もその可能性が強く，築造時期も６世紀代とみて，ほぼ誤りないものと考えられる。

かつて，本墳は埴輪が盗掘され，現在町教委に所蔵されている。今回の調査でも墳丘各所から埴輪片が採取され，埴輪を伴うことは明らかである。埴輪については，別稿にて報告したいと思う。

黒田12号墳（所在地：大字黒田字上川端1887）

上述の黒田２号墳の東北東約200ｍに所在する円墳である（第９図）。２号墳と同様段丘上の立地だが，墳丘の東南方を走る道路際には河岸段丘の崖面が迫っている。付近の標高は73～74ｍで現状は草地である。西側には豚舎があり，南西には小さな谷が入り込んでいる。墳丘の東南に瘤状に突出する部分があるが，古墳周辺でみつかった礫が集積されたものと考えられ，古墳との関わりはないだろう。

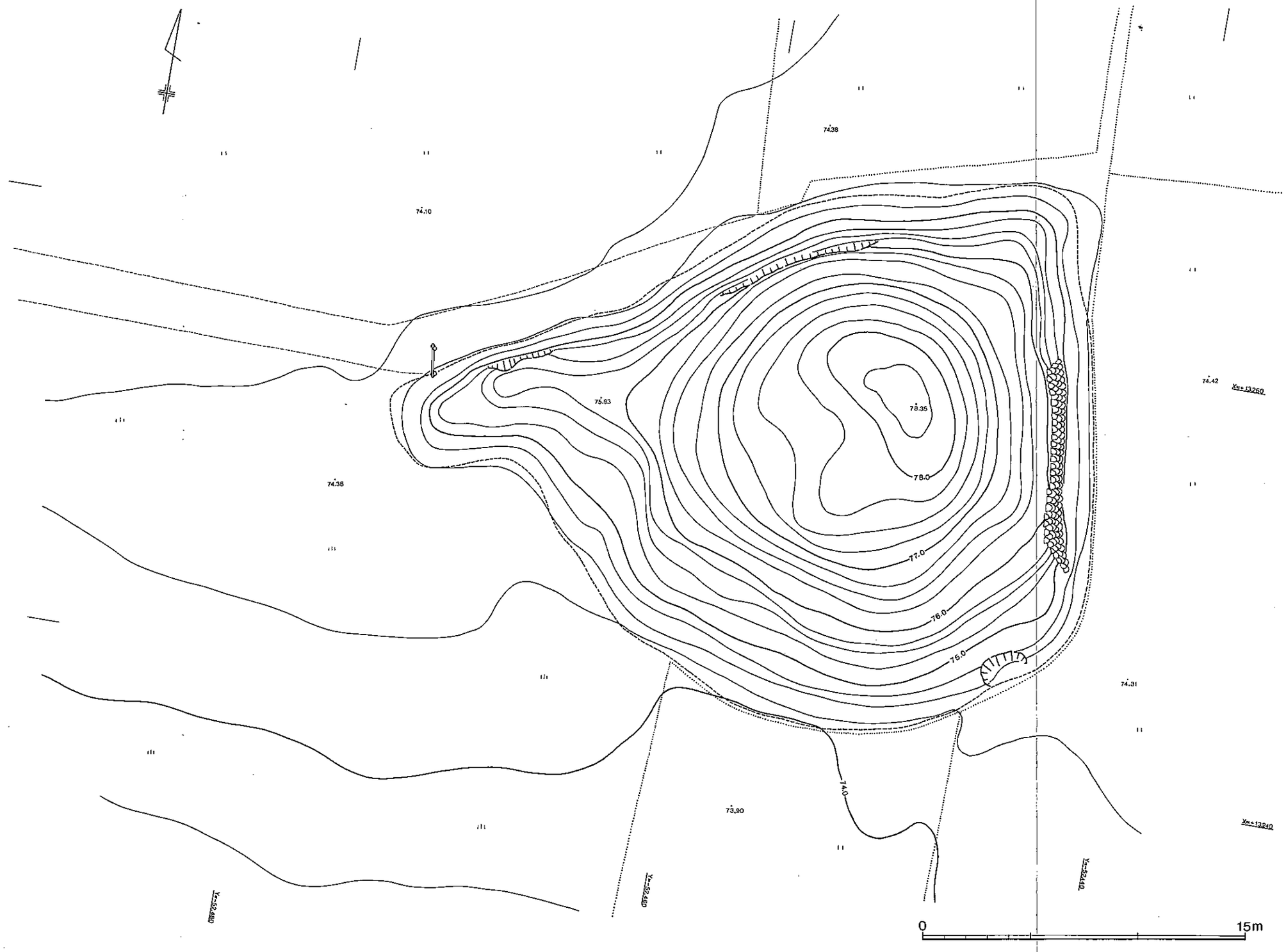
古墳の規模は，北～東にかけての墳裾の傾斜変換線の状況から，直径は約14ｍ，高さは1.7ｍである。なお，墳丘から埴輪が採取されるので，埴輪を樹立していたことは確実だろう。

黒田16号墳（所在地：大字荒川字下河原45－1,2,3）

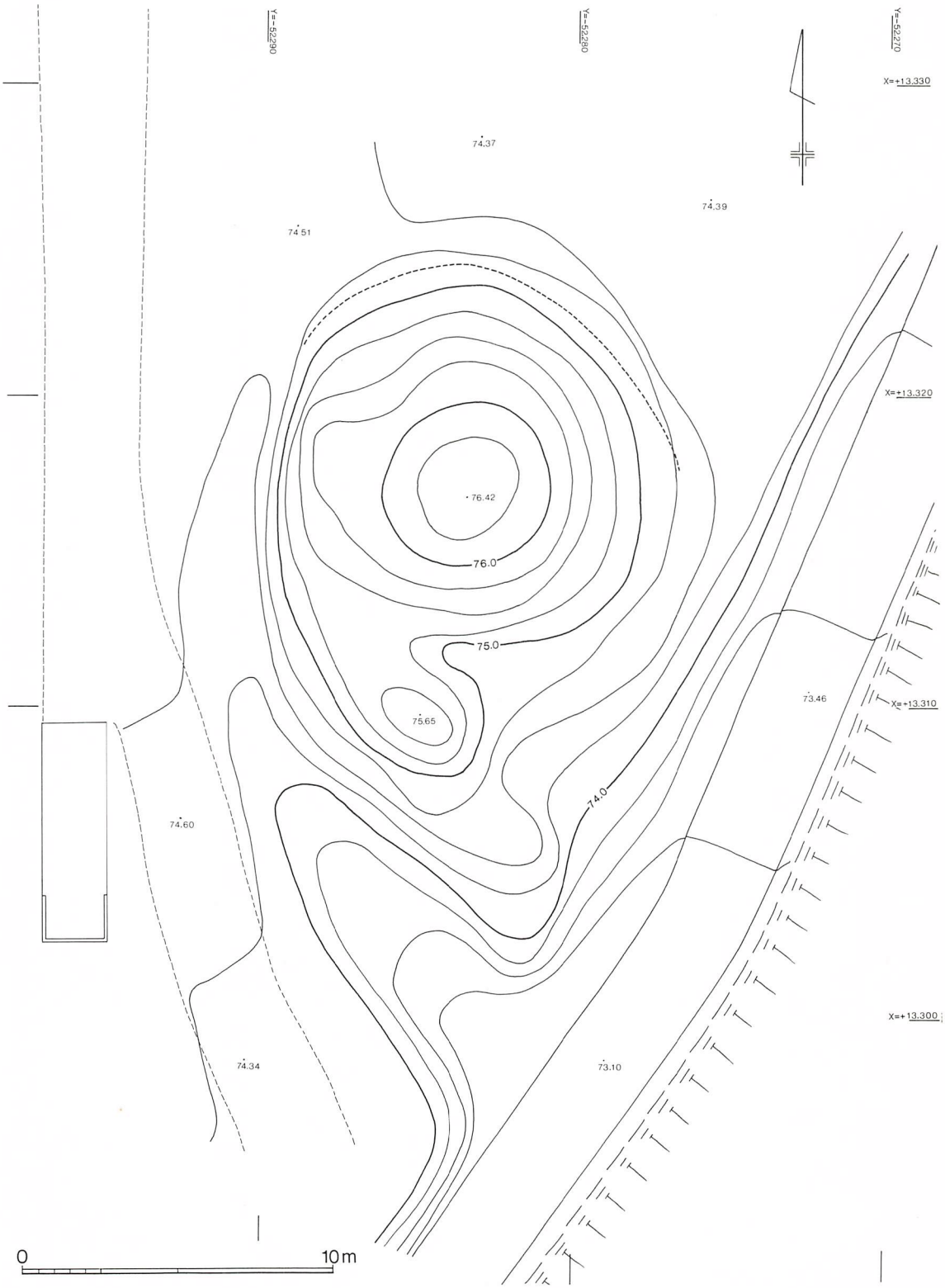
２号墳の南南西約100ｍに所在し，すぐ南は河岸段丘の崖となっている（第９図）。北，西側は水田であり，東側は南北に道路が走っている。現況は山林である。

墳裾の傾斜変換線からすると，直径約16ｍ，高さは最高点が，標高74.58ｍなので，1.8ｍという現況である。

（文責　杉崎茂樹）

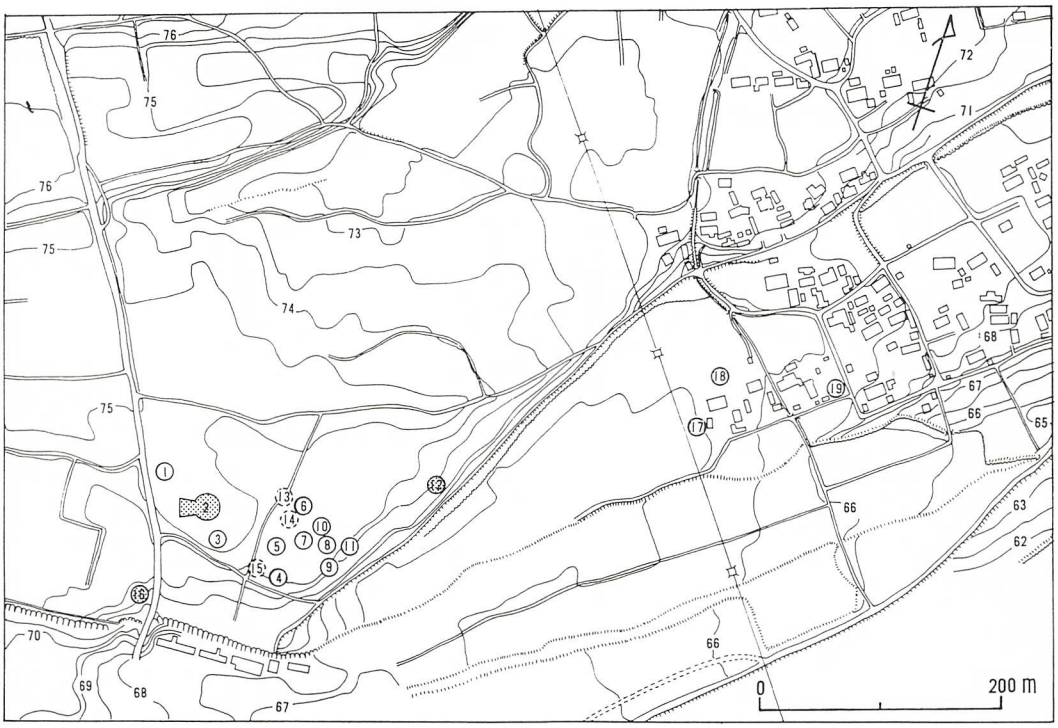


第6図　黒田2号墳測量図



第7図　黒田12号墳測量図

第8図　黒田16号墳測量図



第 9 図　黒田古墳群分布図(『黒田古墳群』同調査会 昭和50年 3 月 による)

写真 9　黒田古墳群 航空写真(ほ場整備施行前，花園町教育委員会提供)

第10図　黒田２号墳地籍図

写真10　黒田２号墳遠景(右遠方は16号墳)

写真11　黒田２号墳近景

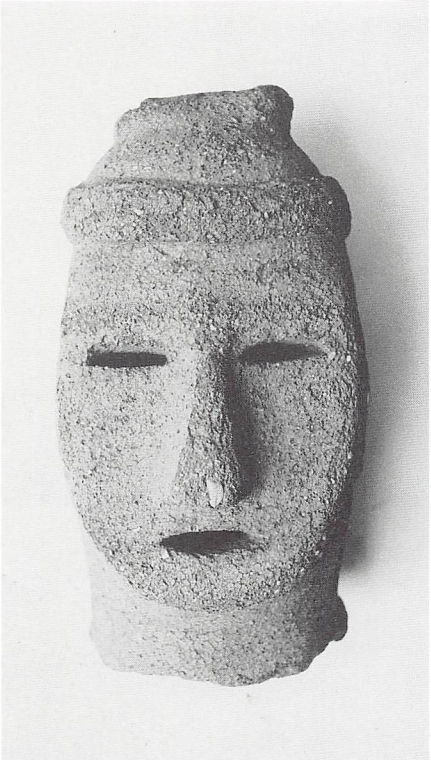


写真12　黒田２号墳出土人物埴輪

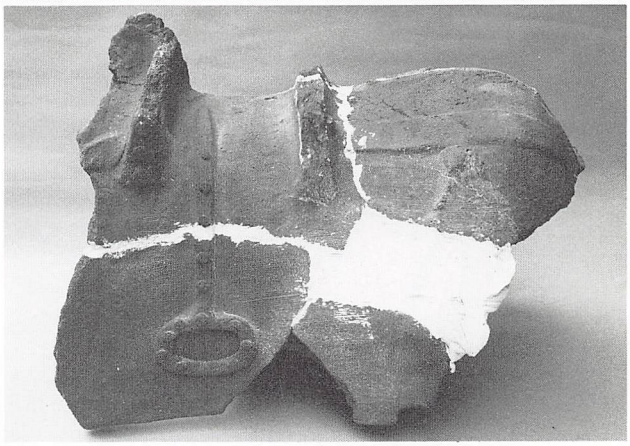


写真13　黒田２号墳出土
馬形埴輪（体部）

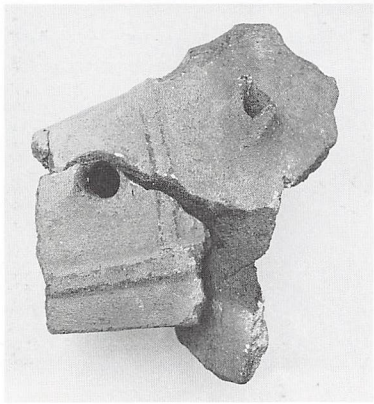


写真14　同上（頭部）

写真15　黒田12号墳近景

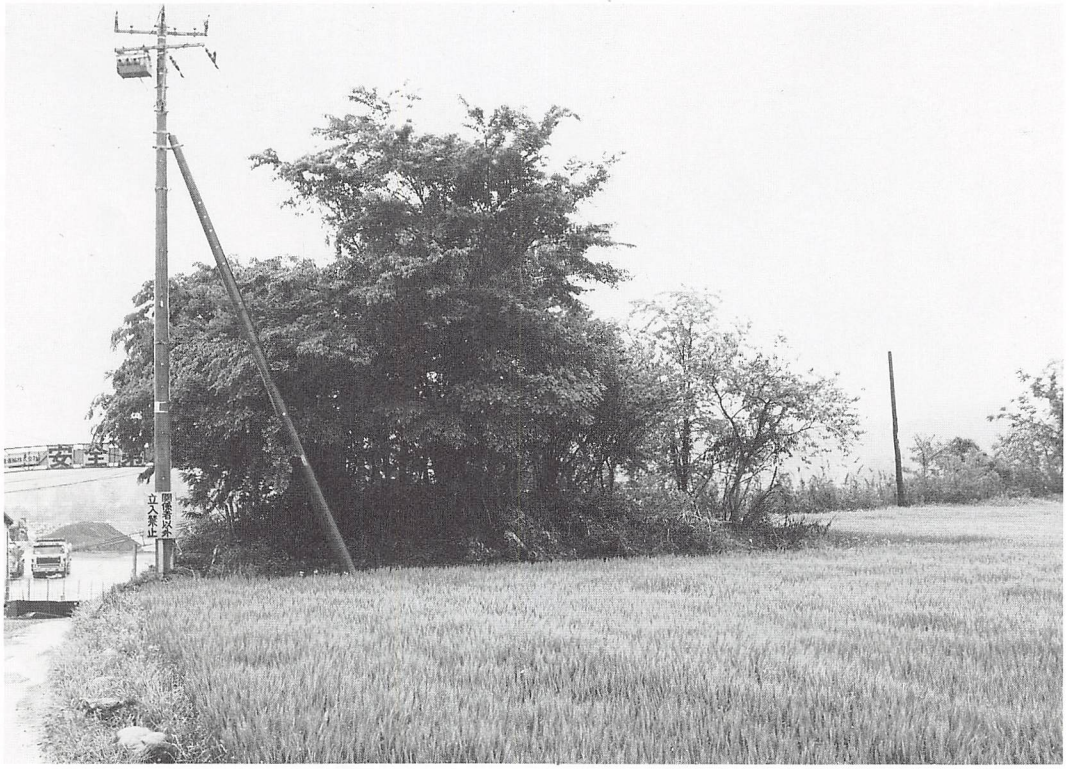


写真16　黒田16号墳近景